題書

增補和歌題林抄

秋　五

增補和歌題林抄中之二月源

月 初丁　秋月添光　結月　秋部

中宵月　秋月　未月　見月

待年月　澄月　秋入月　月部

秋月　十六夜月　八月十五夜　三夕月忘家

之結月　居結月　卯結月　九月十三夜

月部月　夏月　月部夏　月

夕月　涼秋月　山月　月部夏

実月　泥月　月照古松　月部

澄月　潮月　邪月　秋月

山家月　田家月　名所月　月不換処

恋月　旅月　鶏　七丁　月部雑　月中雑

蹄鶏　江鶏　友之鶏
月お鶏　沢辺鶏　田鶏
秋田風　晩見稲光　稲妻十丁
搗衣　日　月お搗衣　夜搗衣
夜搗衣　聖を搗衣　川辺搗衣
山家搗衣　田家搗衣　里搗衣
搗衣非家　板屋搗衣　砧下搗衣
虫を飛一　月お虫　野虫
山家虫　庵虫　庭虫
鹿虫　枕辺虫　板屋虫
秋虫　蟲　沢秋虫
菊久盛　菊有彩花　菊映月

里鶏　鶏八丁
秋田九丁　秋田雁
ちら〻稲妻　田上稲妻
搗衣何方　搗衣門後
海辺搗衣　辻付搗衣
搗衣聖を　行先搗衣
虫十二丁　弱虫を
徒虫　古〻虫
蟲虫　蘭虫
虫を鈴拾　松虫
俊織　菊十四丁
山沢菜

河辺菊　庭菊　菊道を秋　秋菊白
野菊惜秋　九月九日　菊花宴久人　野菊
初お菊　お菊赤迫　夏お菊　山お菊
冥お菊　紅お菊　秋お菊　河お菊
古るお菊　庭〻お菊　竹ゐお菊　松ゐお菊
お菊美人　お菊お破　お菊非乱　お菊雪を
山源お菊妙　お菊秋源　お菊お綿　雪お菊
お菊遠秋　板間お菊　雪お菊源　桃お菊
梅お菊　菊お菊　菊お菊板間　桃お菊
美菊
雪秋去　雪秋霜　河上雪秋
九月を晩　九月を夕　九月を秋　山家雪秋
小雪待　菊十三丁　月お菊　九月を秋
菊十二丁　月を秋
菊

紙着　秋風　六十丁　雲消秋風　海辺秋風
山家秋風　秋風入簾　秋天象　秋池儀
紙洗物　栽植物　秋動物
秋神祇　秋祝　秋雜　秋祭

○月

一　月　ゆくとくり　ありけを　月のとくく
よくくる月　秋ゆくる　月のくる
月　ゆくよ　月人をと　あくれかくる
月　ゆくよ　月人をと　あくれかくる
月　ゆくよ　月人をと　あくれかくる

のぼる月・のひかり・てる月・ちあ
ろ月・こがらす月・月み・じか
・月のぶ・ゑをたてて又・月の
あさぼら・月の氷・月の雲・月の
音・ゆくてしらず・月のえだ月夫
ちたづ・月のえび・月のまち
をてり月・月のまち・月のわる・月の
こうぶき・月のこう・月のすぐさ月
の雲・月のこゆき月のあと
・月のうてな・月のぶも・月のこの月
・月の月・神の月・うぶすの月
こがくれの月・あぶらの月・松のく
の月・月とりつと・月のうをとと・月
の夜月・月とな・月のあとつ
月とう・月とあづ・月とうーく

いふなりのうとり夕月ようあどんがのう
なるの新とあるのうくれとうとくれ月ハふのと
ととろれどあるうをゆくまふハようりゆく
むこうりとあるーむ又月のうろーといふこと
あり月のふふきうろーれ木のひとう
なり・こまとかつーー男ーとりの春ー秋ハ
りーちのすーるーてり海さうーとあうで
ちろ秋ーとうーとーゆとーあどやーしー木
のまーりりうハ桜とのーんひらーち
などーーしむ春ーー又月の春とりひくハ
うーゆくとのーひ・あとれうーをよろくく
ふうーー月ゆくーーー

秋月海辺　実隆

月の海・ふかき世の海・月さえ
月のつゝみ・ちとせ
月・ふるさと・月よ・ふるし・あらし
月・空・あさ・世の月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月

秋月　家隆

月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月
月・月・月・月・月

雅世

後拾遺院

定家卿

後拾遺院

公際

耕雲

三条西実隆

後拾遺院

後拾遺院

後拾遺院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月照古橋　左大臣
月照古橋
年中行事五八月十五日五八
橋の流れ神社敬生去のこと
さぶらひ人名人名をもこと
なる事なれよりこの月
中さびあんばいけりとも
ひとうひ殺生禁のこと
元播磨国長者流水長池
の事よりおこれるなり神功
皇后新羅をせめ給ひける
時の流れうひ殺生禁
あるまあるなり
九月十三夜五八

海辺月　海辺月
文治　海辺月
湖月　湖月
実澄　実澄
玉分　玉分
家隆　家隆
為家　為家

○五月の月
○五月の月
○五月の月

郭月　郭月
家雅　家雅
海月　海月
実澄　実澄
月照古橋　月照古橋
月照古橋
月照古橋

江・天神川・三宮川・御影川　文的

三田・里のあま・れば・ふるの浦

ふるくの浦・ささなの社・大あ〜　万葉集

その社・いろは・さうは・あふ坂

より殿・ささなみ・ゆくのこ海

みくさ山・神路山・みてぐ・殿山　主殿

ささの川・おうらの浦・なごの

浜・たう浦・ふるみ・さまの海

ひろのうら・嵯の尾・

○俳諧

二　俳諧　　ふるまれ里　まの入口

〜ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ

○略

三　略

○略

秋田

○秋田

秋田

・秋田りろ・山田りろ・ありろ稲　あさの田はかりつかのとこともつのさく

・秋のつかしりろ・ろるくのをふ　いかろとをろ限も・あろこさろしくと

ろろろ○ろろ田のりしく　稲を作くろもゝあろこもくあた

ろ秋・ろるゝ・をゝ・ふ田の和り　乃和ろこれひとすしろかもろくしむ

・のりろ・ろ・うりかさ・ふ田の花　きこのふこそさるゝとりしいつのろふ

・ふ田の秋風・ろろふろ・ありろ　いかるかもそろし秋風乃姿

田ろ・ろさかれうゝ・と稲かを　夕されとかくこのいるゝとろつ

き・ろりの花・うりかの山　あしのまろ屋よ秋風をあ

うりたれ花・ろゝゝ・ろ・ろ　稲補　秋田歌　師兼

ひろろ・ふ山田の花・りろ　あしろふ屋りろ高そひさりふさ

すゝ・ふ田のなろ・とねろ　ちれ田れと稲いろろろ

りろ・うりかの家・ふりの田　秋田風　家清

ろ・ろくさ稲・稲りかを・夕日　いるゝ家稲ゝ和ろさとろよそのりろ

田面・山田のりろ・稲田のりゝ　ろろ月ろろ・うし萩ろろ風

ろろりかとろろ・ろゝとろろろの

ろの和

○稲妻

・秋のつかろ・ろしのいろろ

・かろふ稲つゝ・りろふ稲ろ

・ふ稲の稲つゝ・ろ秋の稲ろ

・ふのろろ・かのろたろろ

ろりろ・ろろ・ろんのりろ秋

・ものろ・ろ・ろ・ろ・ろ

・あ・れ・ろ・ろ・ろりのろ

・ゝ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ

・ろりろ・ろのをろ・あ・ろ・ろ

ろ・ろ・ろのをろ・ろ・ろ

・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ

・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ

・ろ・ろ・ろ・

○搗衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○搗衣部

[illegible]

秋の夜の月の行きさえのかうにて衣を
[illegible]

搗衣部

秋の夜の月にてかりかりうちもうつ
[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

搗衣部

[illegible]

○虫の部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月の出　月の入　月の光

○出の名所

・[illegible]　・[illegible]　・[illegible]　・[illegible]　・[illegible]

人の紙ぶくろをあかめくるに海のさくらのひ
つまをぬぎのまにちらせるをみて
くるみくうるひろうさためてとりひそぶ
さくらをぶどうの名をあやまりてちるを
りのえをいとをんをもとむ角しまど
八重さくを菊をちりとけばいとゆくへ
さるのかをもとむ角
ちるあそふゆしこやたちん神垂の
とをさまりはせちるちくの花
雪のしはすはのこるはつりしと
おりふしをさみをちるしきくれ
拾遺 菊の九月九日はのこるとをむへを

九月九日 菊のさけをつひとくはいんをのつをとをよ
せるをとをとをと

菊のえんとう寄八月をくくる

○菊の名所

大沢池・嵯峨上流・すしうり・大井川・たかせ・あり・菊の名所・玉泉・菊のさ流・りうえの流・りうえの・菊川乃里・野の天・うらおの流・アヤセ・伊山・ふるよこ・むこ・ひこ・こ・こ・こ・神・こ・こ・こ・の池・菊の流・紀・ふる野・二見の・こ・

○後齊諸記と接する紀流の費

長房桓景ハ流ちく九月九日汝ら家ハつぎうひあるべし高ひでありて紀袋ハ菊花酒とのまゞ山こゞこひするうち流せんとうとこれより九月九日菊花宴と事ハじまりしなん

永和会

月と

菊茶宴

ひやきん

ひろ

ひろ

山路菊

あ数

ひろ

おもひ

ひろ

ひろ

ひろ

○あるし

・ちりしき・秋のおもしろ・ちろ
ちりて・ちかのおもし・秋のちれば
うすくちろ・ちろ・○のおもし
・ものおもしろ・ものすさまじ・ちりあ
し・ものおもしろ・ちるおもし・ちれ
ものふる・ものの・ものおもしろ・ちづ
・ものしれおもし・ものおもしろ・ちる
のはあ・ものうきおもし・物のかし
みしき・秋のおもし・秋のしぐ
浦さのおもし・ものすおもし・物
のおもし・おもしの・おもしろ・ものさ
の物・おもあし・ものしの・おもし
・ものおもし・ものしろ・ものすおもし
ものすおもし・ものすおもし・ものの

八　紅葉

うちのもち　ちりみち　ちりもち
くれなゐのもち　やかのもち
もみぢの　ちるの　あらし　さかし
もしけの　秋なひのり　あひのの

やしかのおもしろ・ものすさまじ・ものしろ
いろ・ものしろ・ものすさまじ・ものしろ
さかしろ・ものしろ・ものすさまじ・ものし
ぢ・ものの日・ものすさまじ・ものしろ
のもし・ものすさまじ・ものしろ・ものし
ものしろ・ものすさまじ・ものしろ・ものし
ものすさまじ・ものしろ・ものすさまじ・ものし
ものすさまじ・ものしろ・ものすさまじ・ものし
ものすさまじ・ものしろ・ものすさまじ・ものし

・物のおもし・ものすさまじ・ものし
ちぢ・ものすさまじ・ものしろ・ものし
・ものおもしろ・ものすさまじ・ものし
・ものすさまじ・ものしろ・ものすさまじ・ものし
・ものすさまじ・ものしろ・ものすさまじ・ものし
・ものすさまじ・もの

○白雪のふる海・あれぬなりしら
てらあまてしれぬ千ぢ杵の人
・ふるのあまの・なまのへ・そあさ
をさ・あろんろ・あまりしぐ
れ・あの木・海つもうてれ
海・このまの・松つたの・あの
・あるしらうるあまで・うるの
ものあまの・あまの浦・あまの
下ゆふ・あまのの下てる・ふぐ
のあまぐ・あくれ・あまをぐ
らび・うるあまの・あまのあ

山あまの
みちあまをちしゆよすれくをはしあ
うあるあれあるやをもしうん
牡あまの　為氏
れりてあるて人紙のかるあさ
ちうをるうるもの牡
実海あまの　教政
やをあはまをあまのてうをとを
りみちあしくあるしの実
為氏卿　為氏卿
をりうんをるをあ和泉の和りをち
をるをるるふ山先をりしく
あまの教あ　雅教
ちるのうをもあるを山大井川
ゆるをれをるをとをるるけて
海あまの　雅世
いりりや山るけ衣いるをうん
るるるあ海のをるるの

重性
つをふるるるあ海・海とまる海
・あまるのをづえ・りるるのをり
・あまるの新るるあ・ふるまの人
・一しるのあを・りるるて・あま
るあるるふ・あまををのび・あるを
あるるを・あまをあるる・あまをを
れの海・あまの海・をづを人づく
海・あるるあまの・松ををるろ
・赤るるあまの・この三松・春の一
・あの海るん・松のるる海・松のあ
るを海る・あまれあるを春
まるるあまの・あまるる海るあ
かん・松まるるあまをを・あまを
るを春・あまをあるを・三四松

河あまの
いるるるれかをるるるのいるるみを
この川のるるのあるを春あるるを
白寺あまの　実海
ゆるあ海をあるるるるるるるあ
あるるあまの　為家
るるるるるるるるるるるるるを
のるるるるるるるるるるるるを
るるるあまの　為教
ゆるるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
松るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを
るるるるるるるるるるるるを

・勝たくまの河さ・三田根とろや　約後拾　あ原義人
・橋・あ原ちろろこ海くの河き　ちぼ
・うろつりろ原・あ原ての海ろう　こうろ
・雪のあ原こ・こうの根原雪根雪　永正　あ原西錦
・雪ろ・・うれろ雪・雪こ・あ雪　ちろ川の雪ゆす・ゆ・ろ・ろの人の文と
・本宗の雪・あ原・こうの・ろ・ろの文　根こ・すこ・ん　宗氏報雪
・ねろよ・ろと・雪こ・ん根　後大根　ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ　あ原西錦
・あのあ原こ・あ原の・あ根・あ原　こ・ゆ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ　宗氏報雪
・の山・あ原の根根・あ原ての先　須賀谷　あ原鈴雪　あ原
・ろ原・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ　なし・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ　あ原鈴雪　あ原
の川・ろ・ろ・ろ原・あ原・あ原　ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・

・その系・あづちの系・すさの・和名川
・こもの川・四上三河の国・うすの里
・あがた・こまの・色林・うづさ山・く
ず・いりせ山・こうしの・かしの・うす
・神うら山・大井川・ちしふ山・く
まのくま・やりくま山・あしのくま山
・あがた・きさらぎ・すしこ・うす
ず社・このぐれ社・こうず・あまず
・こうず山・やれ神山・まうち山
いしうら山・ふさうら山・ふしこ・えの
山・ちづしき・あしうら山・神
・うちち山・ちねづく山・うあ山・ちむ
ろどふ・ちねくふ山・如毛社・社字
・ちし・波・うつ川・ちし川・みを
川・布川の波

延文

宗雅

為道

拾遺

拾遺系院

○雲秋

・あさのくれ・あさうゆく・秋と
・秋のうれ・あさうれ・ちれ
・秋のうれち・あさ・秋のそう
・秋のくれ・秋のくうあ・み
・あさ・大きうの秋の日数・あ
・きのうれ・雲ゆく・ちれゆ・あさ
・ひ・ちのひ・秋・秋のあ
・秋・ちて・雲ね・あ・ちしあ
・秋・ちうこ・ちうちく・ま・あ
・秋・木・の秋・ひ・ゆ・ひの波
・海のあ・秋・雲・ちあ・ちあ
・秋の・ま・雲・ちうあ秋・ちうあ
・秋のふ・秋のあ・ちあ　この波
・・秋のうこ・あ・ちあ波りの

九　雲秋　くもの秋　ちくの秋　ゆくあき

・秋のくれ・あさうれ・ちれ・ちあ
・ひ・ちあ・ちあ・ちあ・ちあ
・ちあ・ちあ・ちあ・神・ちあ
・ちあ・ちあ・ちあ・ちあ・ちあ
・ちあ・ちあ・ちあ・ちあ・ちあ
・ちあ・ちあ・ちあ・ちあ

・秋てさかぬ秋・とはゆくあき
・秋ふれとうるふ・秋とふれね
・七月のをはつ・くるふれの秋・暮
・秋のこうれ・秋のこうれ・秋の
・月の・ふるこ・ふ・ふ・ふ
・あとのこと・ふれそも
・ふのく・秋の・ふのこと・秋と
・くる・秋・くこう・秋ふ・ふ
・秋の・秋ふ・ふ・ふの・ふ・ふ
・ふひふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ
・れくふふ・秋・秋・ふ・ふ・ふ
・つき・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・秋の
・ふ・げ・秋・ふ・ふ・ふの・ふ
・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ
・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・秋の

つきんの秋ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・

○[illegible]律[illegible]

九月をはりの日

文内

おくりおくれしこころもの秋九月和のうらへを
まつあるとこの[illegible]
[illegible]九月を
つ○[illegible]
うさかなる秋そはぬよ言ぬる

○[illegible]

躑躅之部

一　躑躅

おる日つさとの秋のこゝめ日ゝのうへ
夜のかうりあり[illegible]をもあつさ
[illegible]
をなとをしをふ[illegible]夜のあうをの
すしうゝ[illegible]

のあつさ・秋あさ・あつさを
秋よのとし・初秋風の夕すゝと
[illegible]
秋ゝ[illegible]

○小[illegible]

・うゝ・すゝめ・[illegible]
・[illegible]
・[illegible]
・[illegible]
・[illegible]
○[illegible]
・[illegible]
・[illegible]

秋あさ[illegible]
[illegible]
おる日つさとの[illegible]
[illegible]

二　小鷹狩

[illegible]
[illegible]
秋のかりの[illegible]
[illegible]

三　萱

[illegible]

○菊

○こぞの秋・ゆくへ・こぞ・こぞ・こぞ

秋風・秋うら風・春のうら風
・実の秋風・月の秋風・花と
あらし・さびさ秋風・春の秋
風・山桜の秋風・春のうら
とけかすみ・秋風・夢の思ひぐ
・春つら風・雪の花ゝ・ふる
さくらびての秋風

○春歌

・うら田の秋・ふるの実・ふる
・ふる川の実・ふるう・ふるう
・ふるゝ山・さうの山・ふる花・む
さ雨・むさ・ふる雨・ふる雨
・春うら・ふるくさ花・ふるゝ
・うしろ・ふる雪・ふるくさ
ふるゝ山・ふるさ・ふるう川

初雪の
ふるさとの雪を踏すてゆく秋の風
中しこ　雪踏秋風　秀能

春花
とゝこゝ山ゝ秋の雨ふる雪やうつるらん
実踏すゝ秋風　聖武秋風　西行

雪花
ふるくわくゝの雪ゝ山雪ふるう
小ゝけゝうゝ秋風　海辺秋風　秋河

春花
夕くれわくゝの雪ゝ山雪ふるう
ゝのうゝ雪ゝ秋風　夢そうく

春花
秋風
山ゝ秋風　後撰源頼
ゆゝ紅すゝひゝうゝやゝひゝ
ゝやこの秋のうゝをゝうゝや
秋風入簾　西行

春花
ゝうゝ秋の雨ふる雪ゝうゝ
こゝのうゝゝむゝ秋うゝをゝ

○秋夕雨　秋夕雨　知家卿
月の秋　月の秋　月の秋　

○秋神紙

慶家集　三百卷　七月

年中行事に五社の神やしろの
あるかりのはらいにとて
風ふくの神たちのぬさとて
つくるものとかやとかくとい
ふなるべしとかや
中納言　松を今こそ見れば
神社しるしの神のぬさとぞ
ふりける

秋雜

恵家

ながしこそすれ秋の神の
ぬさとぞ

秋旅

能永

ひさかたの海やあまの苫かけん花のかりねの
ひさしかりけり

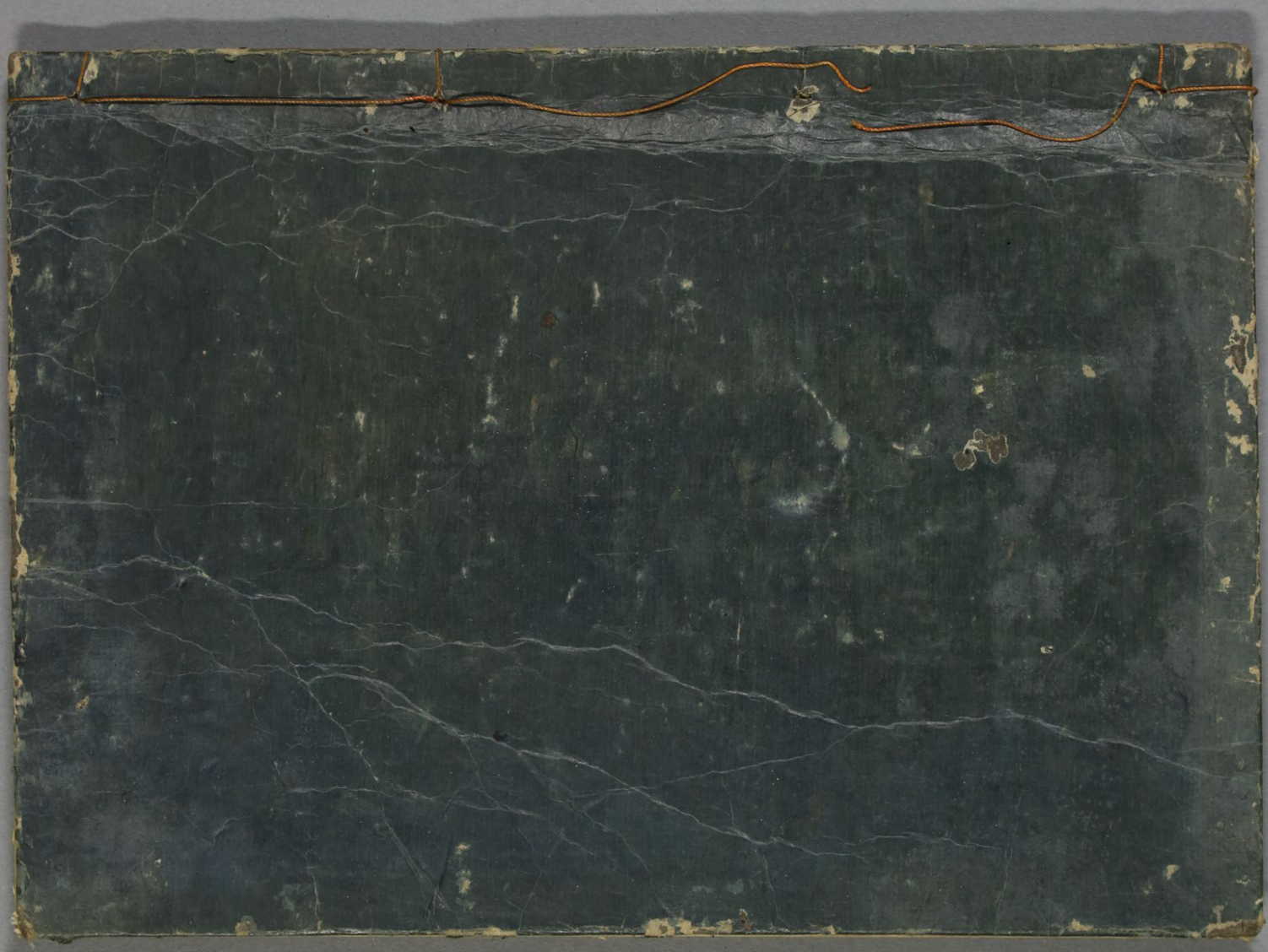
秋神紙

中納言

ながしこそ思ふこころのはてしなさやもきこえ
神もしるらん

秋祝

為家

ちよまでの松にかけそへて
ながしこそ思ふきしの岸人のまなかに

拾遺抄秋題目終中之二